

「庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画」
の成果と課題報告書

平成 27 年 9 月 28 日

庄原市教育委員会

目 次

はじめに	1
第1章 「現状と課題」に対する実績からの評価	
1 庄原市における博物館・資料館離れの状況について	2
2 意見書による課題の指摘	2
第2章 「基本計画の理念」に対する実績からの評価	
1 博物館・資料館機能の充実化	3
2 庄原市における博物館・資料館の役割	3
3 庄原市の博物館・資料館の将来像の実現	3
第3章 「庄原市博物館・資料館の再編整備」の実績と課題	
1 施設の再編整備	4
2 テーマ特化による活動方針の強化	4
3 連携体制の構築と博物館・資料館包括担当職員の配置	4
第4章 「事業展開の視点」に対する実績からの評価	
1 博物館・資料館機能の向上	5
2 需要の創出	5
第5章 「事業の展開」の実績と課題	
I 全体事業の展開	
1 博学連携事業の展開（小中学校）	6
2 博学連携事業の展開（大学）	8
3 地域連携事業の展開	10
4 市民学芸員の育成	11
5 展示室の再整備	12
6 企画展示の充実	13
7 データベースによる資料整理	13
8 博物館・資料館アンケート調査の実施	15
9 博物館・資料館事業のPR活動の充実	16
II 個別事業の展開	
1 比和自然科学博物館・地学分館、比和文化保存伝習施設	19
2 帝釈峡博物展示施設時悠館	20
3 口和郷土資料館	23
4 西城歴史民俗資料館・宮田武義記念館	24
5 総領郷土資料館	25
6 庄原市歴史民俗資料館、倉田百三文学館	26
第6章 事業実績評価総括表	28

はじめに

「庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画」は、新市合併から6年後の、平成23年11月に策定した。

当該計画は、博物館2館・資料館7館の計9館に関し、旧市町時代からの運営体制を継続していく中で運営体制や資料の活用など様々な局面において浮かび上がった現状と課題に加え、庄原市博物館・資料館運営協議会から提出された『庄原市博物館・資料館の今後のあり方に関する意見書』で指摘された課題の解決を図る方策として策定されたものである。

計画の内容は、計画策定の背景となった現状と課題、基本計画の理念、庄原市博物館・資料館の再編整備、事業展開の視点、全体事業の展開、個別事業の展開、スケジュールからなる。計画期間は、平成23年度を初年度として、平成27年度を目標年度とする5ヵ年計画とした。

この報告書は、当該計画の実績を客観的に評価し、次期計画の策定に有効に反映させることを目的として、成果と課題を総括したものである。

結果として、計画当初に立てられた目標を達成できていない事項が多く見られ、「PDCAサイクル」(「Plan (計画)」→「Do (実行)」→「Check (評価)」→「Act (改善)」)の重要工程とされる「改善」のプロセスを着実に経ることで、次のサイクルにおけるより良い計画、実行へとつなげていく必要がある。

第1章 「現状と課題」に対する実績からの評価

1 庄原市における博物館・資料館離れの状況について

平成合併から6年を経過した平成23年当時、庄原市は、博物館2館・資料館7館の計9館を設置し、運営していた。各施設は、設置当時のテーマに基づき、各地域を代表する貴重な資料を展示・収蔵していたが、来館者が減少する傾向が続き、庄原市全体における博物館・資料館離れの進行が判明した。

この背景の一つに、施設設置に携わった郷土史研究会や文化財保護委員、郷土文化に関心をもつ人々の高齢化が大きな影響を与えていることがあるが、後継者育成は十分になされておらず、博物館・資料館と地域社会の連携体制が徐々に希薄になってきている現状が明らかとなった。

しかしながら、各施設に配置された現有の職員、各支所教育室、生涯学習課による運営体制のもとでは常設展示を中心とした消極的な活動に留まらざるを得ないため、開館当初と比べて大きく変化した庄原市の状況を踏まえ、利用者や協力者、担当職員と博物館・資料館の関わり方について見直すことで、博物館・資料館離れが進行する現状の打開を図ることをめざした。

具体的には、現行計画の策定を進め、「第4章 庄原市博物館・資料館の再編整備」において、「施設の再編整備」「テーマ特化による活動方針の強化」「連携体制の構築と博物館・資料館包括担当職員の配置」について方策を練り、事業を展開した。

計画期間を通じて、「施設の再編整備」「テーマ特化による活動方針の強化」において一定の実績が得られたが、「連携体制の構築と博物館・資料館包括担当職員の配置」においては慢性的な人員不足など多くの未解決課題が残り、現在のところ、「博物館・資料館離れが進行する現状の打開」には至っていない。

「Check（評価）」→「Act（改善）」→「Plan（計画）」→「Do（実行）」のプロセスを通じて、現状打開の方策としての各事業の内容を見直し、精度を高めていく必要がある。

2 意見書による課題の指摘

平成21年度に提出された『庄原市博物館・資料館の今後のあり方に関する意見書』において、「施設運営の脆弱化」「博物館・資料館機能の低下」「需要の低下」という3つの根本的な課題の存在が指摘された。

「施設運営の脆弱化」に対しては、現有の職員体制でどのように強化するかが大きな課題と考えられたため、「第4章 庄原市博物館・資料館の再編整備」において、「施設の再編整備」「テーマ特化による活動方針の強化」「連携体制の構築と博物館・資料館包括担当職員の配置」について方策を練り、事業を展開した。

「博物館・資料館機能の低下」に対しては、常設展示に偏り過ぎていた博物館・資料館活動の見直しを図り、「第5章 事業展開の視点」において、「博物館・資料館機能の向上」について基本的な視点を明らかにし、事業を展開した。

「需要の低下」に対しては、博物館・資料館活動に対する関心の薄れと利便性の悪さが影響していると考えられたため、「第5章 事業展開の視点」において、博物館・資料館活動の魅力的なPR活動や情報の公開といった「需要の創出」について基本的な視点を明らかにし、事業を展開した。

計画の実施に際しては、各事業の展開を通じて上記の諸課題の解決を図ることを目標としたが、現在のところ、いずれの課題も解決に至っていない。

「Check（評価）」→「Act（改善）」→「Plan（計画）」→「Do（実行）」のプロセスを通じて、課題解決の方策としての各事業の内容を見直し、精度を高めていく必要がある。

第2章 「基本計画の理念」に対する実績からの評価

1 博物館・資料館機能の充実化

当該理念に対し、現行計画は、「資料収集機能」「整理保管機能」「教育普及機能」「調査研究機能」という博物館・資料館の4大機能に関して、それらの全ての機能の向上を主軸として各事業を展開する方向性を定めた。

しかし、実際の各事業の項目立ては、教育普及機能の向上に主眼が置かれ、必ずしも主軸とすべき4大機能に基づいた体系付けにはなっておらず、どの事業によって、どの機能をどれくらい向上させるのか、具体的には明確化できていない。

当該理念の達成に向けては、次期計画において、これら基本機能に基づく体系のもと、各事業の位置づけを見直し、目標設置とともに新たな観点で事業展開する必要がある。

2 庄原市における博物館・資料館の役割

当該理念は、「庄原市における博物館・資料館の在り方」の最終的な理想像である。

具体的には、博物館・資料館が「郷土文化を凝集した『地域密着型』」の施設であるという重要な定義付けを行い、「(1)地域が育む郷土文化の再発見」「(2)地域住民の誇りある郷土愛の醸成」「(3)魅力ある地域社会の再形成」という、3つの果たすべき役割の実現に努めるとした。

これらをつなぎ合わせると、地域密着型の各館の活動が庄原市民と共に十分に機能することにより、「地域文化の再発見→郷土愛の醸成→魅力ある地域社会の再形成」というサイクルが実現するという、円環形のイメージとして理解される。

このサイクルをうまく回転させるためには、最初の工程である「地域が育む郷土文化の再発見」工程を力強く発動させるための十分な推進力の確保が肝要となる。しかし、現行計画の実績からは、各事業が工程上のどの部位に対する推進力になるのか、十分な検討がなされてこなかったとも言える。

当該理念の達成に向けては、各事業を、サイクルを回すための確実な推進力となるよう、円環上に描き直し、共有する必要がある。さらに、初期工程を確実に起動させるための有効なスイッチが何なのかについても明確にすることが求められる。

3 庄原市の博物館・資料館の将来像の実現

当該理念に対し、現行計画は、前項で位置づけた役割、つまり「庄原市における博物館・資料館の在り方」を具現化するための、「(1)「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館」「(2)市民参加型の魅力ある博物館・資料館」「(3)市民に身近な地域密着型の博物館・資料館」という、3つの目指すべき将来像を明らかにした。

これらは、博物館・資料館離れが進行する現状と課題を解決するための方策として打ち出した「運営体制の強化(ステージ1)」→「博物館・資料館機能の向上(ステージ2)」→「需要の創出(ステージ3)」という、3つのステージからなる事業展開を通じて実現を図るとした博物館・資料館の将来像でもある。

現行計画に掲げられた各事業は、当該理念を達成するために構想された具体的方策そのものであり、各事業の着実な進捗によって理念達成へと近づいていくことが求められるが、計画通りに進んでいない事業が多く認められた。

当該理念の達成に向けては、事業展開の各ステージに対する「Check(評価)」と「Act(改善)」が不可欠となるが、「運営体制の強化(ステージ1)」のところではつまづきがあったとも考えられるため、当該ステージまで立ち返り、次期計画に向けた事業の洗い直しが必要であると言わなければならない。

第3章 「庄原市博物館・資料館の再編整備」の実績と課題

1 施設の再編整備

現行計画は、合併後も継続する地域単位での活動の枠組みを外し、庄原市全体として連携のとれた活動を実施し、各施設の活動をより充実化するよう事業を展開する計画とした。

西城歴史民俗資料館及び総領郷土資料館を収蔵学習室とし、庄原市歴史民俗資料館の付帯施設化は完了した。また、宮田武義記念館も西城支所でのコーナー展示等へ変更・改善した。比和郷土文化保存伝習施設についても、廃止後に比和自然科学博物館の付帯施設となった。

しかしながら、全般的にそれらの施設に収蔵されている資料の活用が十分に実施されているとは言いがたく、当然ながら各施設の活動の充実化には至っていない。そのように十分に実施されてこなかった要因として、市全体としての連携不足や、それに伴う（特に収蔵学習室の）曖昧な管理形態が挙げられる。

そのため、庄原市博物館・資料館運営協議会の意見を取り入れながら、生涯学習課、各支所教育室、各館での更なる連携強化と、収蔵学習室の管理形態の明確化を図る必要があると考えられる。

2 テーマ特化による活動方針の強化

各館について、計画に則ってテーマ特化を行った結果、活動方針の明確化について比和自然科学博物館で展示の刷新等が行われ、全体としては一定以上の成果が得られた。

しかし、機能分化による施設間の連携の強化にまでは至っていない。また、テーマ特化により行われるべきであった各館のビジョン・ミッションの見直しや検討も行われておらず、そのことについて計画にも明確な方向性が示されていなかったため、これらのことが各館の事業展開において少なからぬ影響を与えた可能性がある。加えて、比和自然科学博物館のテーマ特化によって展開される事業は、「教育普及機能」のうち「展示」の向上は図られたものの、他方でそれを行っていくための裏づけとなる収集活動や調査研究活動についても重視していくべきだったと言える。

各館ごとにこれからの事業展開の軸足となるビジョン・ミッションを改めて定義し、展示活動（＝教育普及機能）と同様に資料収集・整理保管・調査研究の各機能にも重きを置くことで、各館のテーマ特化の進化と深化を図り、今後の活動方針の更なる強化を目指さなければならない。

3 連携体制の構築と博物館・資料館包括担当職員の配置

博物館・資料館包括担当職員の配置には至っておらず、なおかつ施設間の連携体制構築は進んでいない。また担当職員による連絡調整会議についても開催に漕ぎ着けられていない。

連絡調整会議は、綿密な連携体制の構築と、円滑な事業実施にとって必要であり、確実に実施する。

また、各施設の活動の充実化には資料活用や調査研究の充実が不可欠であり、着実な実施のため、生涯学習課への包括担当職員の配置について検討を続けるとともに、当面は学芸員資格を有する職員の複数名配置によってカバーする。

さらに、生涯学習課及び各所管部署の事務分掌を明確化することで、連携体制の再構築を図る必要がある。

第4章 「事業展開の視点」に対する実績からの評価

1 博物館・資料館機能の向上

「事業展開の視点」として、現行計画では（1）消極的教育普及活動から積極的教育普及活動へ（2）博物館・資料館活動に対する協力者の育成（3）現有資料の有効活用（4）利用者と連携した企画という4つの項目で事業展開を実施する計画とした。

これに基づき、丘陵公園や支所での企画展示の実施、ボランティアガイド養成講座の実施、各施設の収蔵資料のデータベース入力、地域イベントへの参画等を実施し、博物館・資料館機能の向上を図ってきたところである。

その結果、積極的教育普及活動や地域イベントを通して見学者が増加するなど一定の成果がみられたが、巡回展示の充実、ボランティアガイドをはじめとした協力者と連携した観光客の施設利用の促進、データベースの全市的な活用、地域イベントにおける博物館独自の活用計画などに課題が残る。

以上のことから博物館・資料館機能の向上については途上であり、二次計画では着実に実施する事業計画の展開が必要である。今後の方策として、企画展示の魅力的なテーマの選定、ボランティアガイドと観光部局の連携による事業の拡充、一般公開用データベースのHP上での公開、各館において大学だけでなく、様々な専門性を有する研究者との連携を進めるなどの事業の推進を実施する。

2 需要の創出

現行計画では（1）市民との意思疎通（2）情報提供ツールの拡充（3）利用手段の提供という3つ項目により事業を展開する計画とした。

その結果、体験メニューやバスの貸し出し等により、利用の促進につながった一方、統合HPの作成、ボランティアガイドや市民学芸員を通じた博物館・資料館活動への参加やアンケート調査の実施等、行う予定であったが実施に至っていない事業もあり、需要の創出について十分とはいえない状況である。

ボランティアガイドをはじめとした協力者が館運営に関わる仕組みを構築する必要がある。また、利用者目線での意見を反映させるためにアンケート調査を含めニーズを的確に把握するための取組みが必要である。このほか、体験メニューの申し込みは増えているものの、本庁対応が多く、各館の多様な体験メニューの体系化が出来ていないことから、各館の出前講座や体験メニューを把握し、全体的なメニュー・手引きの作成を行うとともに、広報誌・各種団体への情報発信及びHPの充実等、効率的・効果的な情報発信の構築を行い、更なる利用の促進を行っていく。

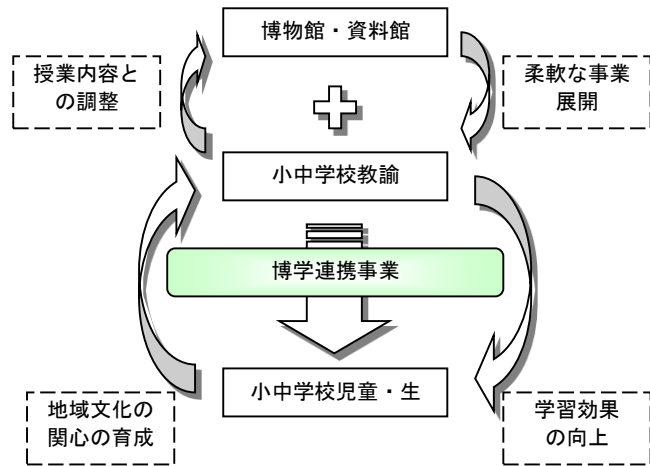
第5章 「事業の展開」の実績と課題

I 全体事業の展開

1 博学連携事業の展開（小中学校）

学校授業において博物館・資料館を利用にあたっては移動手段の確保や授業内容との調整など様々な課題がある。

学習効果の向上、郷土文化への関心の育成を目的として、学校教育において博物館・資料館を活用しやすい環境を整える。



(1) 体験メニューの作成

地域や学校で活用可能な体験メニューの充実化を図ります。平成24年度においては、土器作り、火おこし、古銭作り、民具を活用した昔の暮らし体験などの体験メニューが実践可能である。また学校教員との共同開発によって、学習計画に沿った新たな体験メニューの開発を行う。

① 計画内容

平成23年度	：市内小中学校を対象としたアンケート調査を実施し、体験メニューに対する要望を集約する。
平成24年度	：教材等の購入やテキストの作成を行ない、各施設において体験メニューを実施する。

② 実績

アンケートは実施していないが、現場教員等と協議の上、火おこし・勾玉作り・土器パズル（3点）・土製品製作・短甲試着・短甲レプリカ・丸瓦作り・古代製鉄炉模型・銅鑄造、炭火アイロン、ワラ製品といった体験学習メニューを作成した。

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
—	教材購入5件	教材購入3件	教材購入3件	—

③ 成果と評価

近年の埋蔵文化財調査に対応した埋蔵文化財関係の体験メニューの作成・強化により、学校における博学連携事業の活用促進につながった。

④ 課題と対応

各館の多様な体験メニューの体系化が出来ていない。また、高校との連携が欠如していた。

全館の体験メニューを体系化した手引きの作成を行うとともに、小・中・高の各カリキュラムに応じた事業展開を図る。また、市内へ新任・転任した先生方に対する市内博物館・資料館・文化財の見学等、研修機会の制度化や充実を図る。市内4つの高校と連携して各校の特性に応じたメニューを作成することについても各館で検討する。

(2) 手引きの作成・配布

学校教育での利用促進や学習目的での博物館利用を促進するため、博物館活用手引きや児童生徒向けの事前学習教材・展示学習教材等を作成すると共に、学校の団体利用等に関する相談やアドバイス等を行う。また博物館活用に関する教員との研究会を開催し、

互いの意見・情報交換や学習教材・プログラム等に関する共同研究・開発を実施する。

① 計画内容

平成 23 年度	：生涯学習課及び市内小中学校教諭により、手引きの作成を行なう。
平成 24 年度	：博物館・資料館利用の手引きを各小中学校に配布し、HP からダウンロードができるよう掲載する。

②実績

年度初めの校長会にて博学連携事業の手引きを配布しており、各学校への周知を図っているが、市内小中学校教諭との協議は行えていない。HP からのダウンロードもできるようにしている。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
手引き配布○	手引き配布○	手引き配布○	手引き配布○	手引き配布○

③成果と評価

手引き配布により、埋蔵文化財関係メニューの活用促進につながっている。

④課題と対応

博物館・資料館活用に関する教員との研究会（市教研）は、開催分野が限られている。博物館・資料館活用に関する教員との研究会開催について、各種分野で開催する。よりよい手引きとなるよう、各学校との協議をさらに進める必要がある。

（3）博物館・資料館バス貸出し

小中学校の授業での活用促進を図るため、バスの貸し出しを行う。交通条件からこれまで利用が困難であった授業での博物館・資料館の活用を支援する。

①計画内容

平成 23 年度～	：市内小中学校校長会や社会科部会において出前講座の利用について広報を行い、利用の促進を行なう。
-----------	---

②実績

毎年利用されている。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
バス貸出 2 件	バス貸出 5 件	バス貸出 2 件	バス貸出 5 件	

③成果と評価

博物館・資料館のみならず市内の文化財を活用した授業の実践につながっている。

④課題と対応

バスの移動時間を有効に活用できる体験メニューについても検討を進め、さらなる利用促進を行っていく。

（4）出前講座の実施

学芸員又は博物館・資料館担当職員が学校や市内に出向き、先生方と共同で実物資料を活用した解説や体験学習を通じた授業を行う。

①計画内容

平成 23 年度～	：市内小中学校校長会や社会科部会において出前講座の利用について広報を行い、利用の促進を行なう。
-----------	---

②実績

毎年利用されている。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
出前講座 7 件	出前講座 13 件	出前講座 21 件	出前講座 24 件	出前講座 9 件
うち口和 7	うち口和 9	うち口和 12	うち口和 9	うち口和 9

③成果と評価

毎年申し込みが増加しているが、本庁対応の件数が多い。口和郷土資料館ではレコー

ドコンサート、体験教室、出張映画、蓄音機体験等を実施した。

④課題と対応

各博物館・資料館の出前講座のメニューが学校現場に周知できていない。学校現場のニーズに対応した体験メニューの開発を進めるとともに、各学校に対してより積極的に利用促進する必要がある。

(5) 実物資料教材の貸出し

学校での授業に活用できるよう、実物資料やレプリカ等を組み合わせた教材を作成し、学校等へ貸出しを行ない、学校での博物館資料の活用促進を図る。今後データベースを活用し、貸出可能な資料のリスト化、平成 24 年度実施予定の模造品等の作成と併せて各学校等への活用を促す。

①計画内容

平成 24 年度	: 各施設において教材として貸出し可能な資料を市内小中学校に周知し、授業等での活用を促進する。
----------	---

②実績

毎年利用されている。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	資料貸出 2 件	資料貸出 3 件	資料貸出 5 件	

③成果と評価

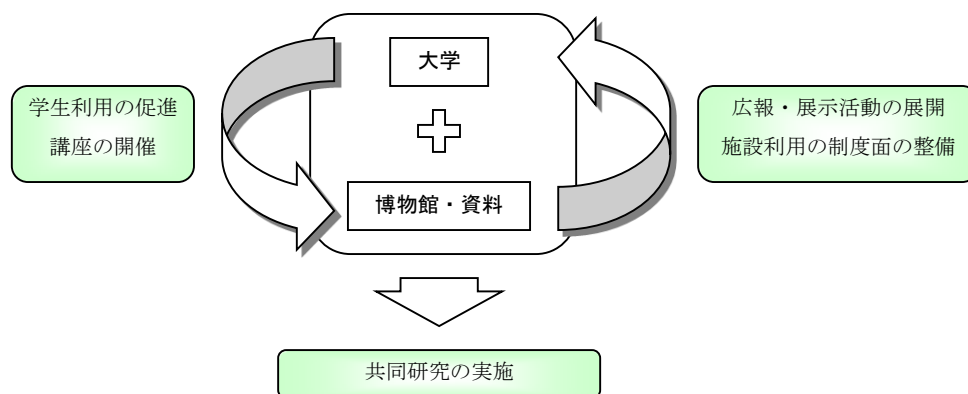
毎年申し込みが増加している。

④課題と対応

貸し出し教材が埋文関係のレプリカ等に限定されている。貸し出しメニューについて博物館利用の手引書を作成するとともに、利用促進及び情報発信について検討する必要がある。

2 博学連携事業の展開（大学）

郷土文化を知る機会を提供するため、県立広島大学や広島大学と連携し、博物館・資料館活動の拡充を行なう。また、調査研究機関である大学と連携することで共同テーマでの研究活動を行い、博物館の調査研究機能を向上させる。



(1) 大学構内における広報活動・展示活動の展開

①計画内容

: 大学構内における広報活動・展示活動の展開。

②実績

県立大学広島の入学式オリエンテーションで、統合型パンフレットを配布している。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	配布○	配布○	配布○	配布○

③成果と評価

新入生へ市内博物館資料館の周知ができた。

④課題と対応

大学構内を活用した資料展示等について検討する必要がある、大学との連携強化が必要である。

(2) 大学講師による市内での講座の開催

①計画内容

：大学講師による市内での講座の開催。

②実績

時悠館において、広島大学考古学研究室等と連携して随時講座を開催している。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	—	—	講演会 1 件	講演会 1 件

③成果と評価

平成 26 年度は時悠館で古瀬清秀氏退官記念講演会、平成 27 年度は比和自然科学博物館で沖村雄二コレクション展を開催した。

④課題と対応

各博物館において広島大学・県立広島大学とのさらなる連携強化を図るとともに大学だけでなく様々な専門性を有する研究者等との連携を進めていく。

(3) 施設利用に関する制度面の整備

①計画内容

：施設利用に関する制度面の整備。

②実績

平成 26 年度よりキャンパスメンバーズ制度を整備、実施しており、現在広島大学（文学部）および県立広島大学が利用している。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	—	—	利用者 194 人	

③成果と評価

平成 26 年度は、広島大学 49 人（比和博 2、時悠館 47）、県立大学 145 人（比和博 77、時悠館 68）の利用が図られた。

④課題と対応

キャンパスメンバーズ制度について、さらなる周知が必要である。

(4) 博物館と大学による共同研究の実施

①計画内容

：博物館と大学による共同研究の実施。

②実績

博物館と大学による共同研究の実施は進んでいない。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	—	—	—	—

③成果と評価

大学組織との共同研究は進んでいないが、個々の研究者レベルでは各種連携が進んでいる。

④課題と対応

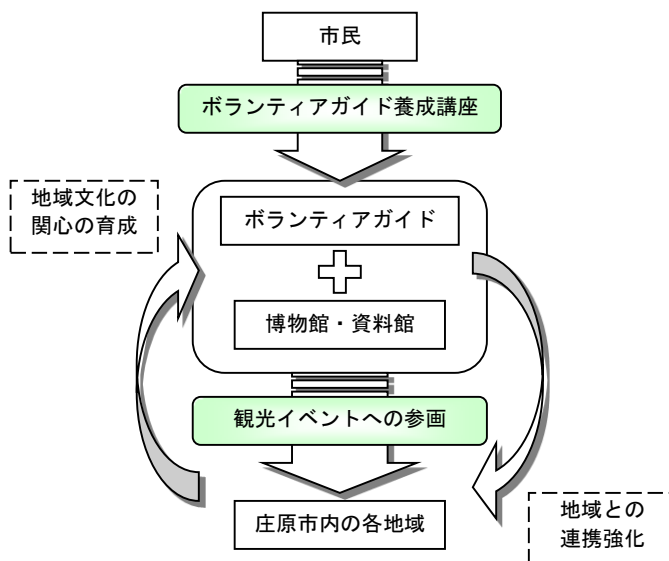
各博物館において大学だけでなく様々な専門性を有する研究者との連携を進め、各館の調査研究機能の向上を図る必要がある。

3 地域連携事業の展開

ボランティアガイドを通じた観光及び地域イベントでの施設利用の促進や観光イベントへの参加など地域との連携体制を構築する。

(1) ボランティアガイド養成講座

博物館・資料館を拠点としたボランティアガイドを養成し、館外活動の強化を行なう。



①計画内容

平成 23 年度～ : 定期的にボランティアガイド養成講座を開催し、必要単位取得者をボランティアガイドとして登録する。
平成 24 年度～ : ボランティアガイドと連携し、観光客の施設利用を促進する。

②実績

毎年開講している。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
全 4 回講座	全 6 回講座	全 8 回講座	全 5 回講座	
受講 12、登録 10	受講 13、登録 7	受講 11、登録 8	受講 8、登録 7	

③成果と評価

育成したガイドの活躍の場が博学連携事業に限られ、観光客の施設利用の促進までいっていない。

④課題と対応

観光部局と連携し養成後の活動の場の確保に努め、登録ガイド情報の外部発信を図る。更に、上記のほかにも博物館・資料館見学や体験学習への参加等利用促進を図るため市内の各種団体や市民に対する効果的な情報発信を行い、活動の充実をめざす。

(2) 観光イベントへの参画

観光部局との連携により博物館・資料館を組み込んだ観光イベントでの施設や資料の活用を図る。

①計画内容

平成 24 年度 : 観光部局との連携により、博物館・資料館を活用した観光イベントへの参画を行なう。
平成 25 年度～ : 博物館・資料館を活用した観光イベントを継続的に実施する。

②実績

普及啓発活動としての観光イベントへの参画は、国営備北丘陵公園行事へ資料貸出を行っている。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
イベント 2 件	イベント 2 件 資料貸出 1 件	イベント 2 件 資料貸出 2 件	イベント 1 件 資料貸出 1 件	イベント 2 件 資料貸出 1 件

③成果と評価

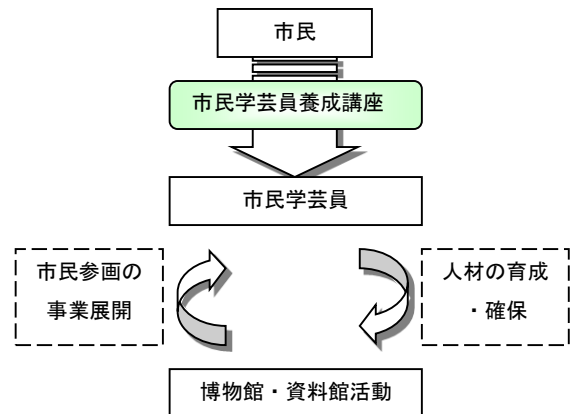
国営備北丘陵公園（口和郷・西城収）、庄原駅前フェスタ（口和郷）、鮎の里、休暇村吾妻山を活用した観光イベントを実施している。

④課題と対応

現状では連携先が限られている為、より多くの連携を図るように引き続き観光イベントの実施について観光部局と協議を行う。

4 市民学芸員の育成

博物館・資料館の運営に市民の参加を求めることにより、事業の円滑な実施を実現し、市民目線での事業展開を図る。市民学芸員は庄原市内の博物館・資料館事業に参加できる資格として制度化し、市民学芸員養成講座を通じて取得できる資格とする。展示関係・普及関係等の多岐に渡って、参加できる。



（１）市民学芸員養成講座

①計画内容

平成 25～26 年度：定期的に市民学芸員養成講座を実施し、必要単位取得者を市民学芸員として登録する。
平成 27 年度～：展示替えやイベント等において随時市民学芸員に協力を要請し、事業の充実化を図る。

②実績

開講に至っていないが、各館の運営に市民が関わる仕組みが構築されつつある。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度

③成果と評価

比和自然科学博物館において市民レベルでの協力者を得ている。

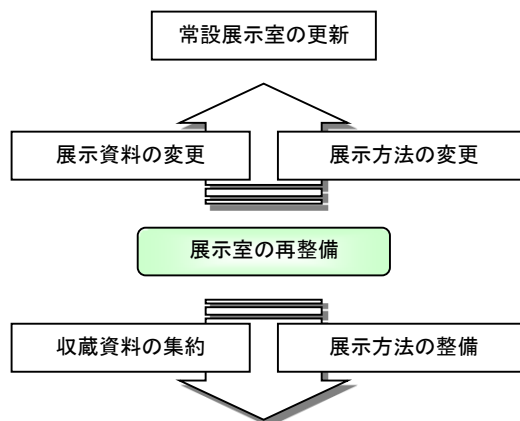
④課題と対応

ボランティアガイドをはじめ市民の幅広い層の協力を得て館運営を図るための仕組みを構築するとともに、市民主体の活動組織の育成を図る。また、人材活用の仕組みについて検討する。

5 展示室の再整備

合併前から常設展示が更新されていないことから、展示資料の刷新や展示方法の変更等による常設展示の更新を行なう。

西城歴史民俗資料館、総領郷土資料館においては、収蔵学習室として展示の観覧や体験学習等に対応できる機能を有する施設とし、収蔵棚の設置を行う等の整備を図る。また、高野町内の民俗資料も集約し、収蔵学習室として整備を行う。



(1) 常設展示の更新

平成 23 年度	：庄原市歴史民俗資料館の化石資料の移動は	収蔵学習室の整備	こついで計画書を作成する。
平成 24 年度～	：比和自然科学博物館地学分館の開館に併せた各施設の化石資料の移動を行なう。また庄原市歴史民俗資料館においては展示更新を行なう。		

①計画内容

②実績

展示更新計画についての計画書の作成は出来ていないが、比和自然科学博物館地学分館の開館に併せ、庄原市歴史民俗資料館の化石資料の移動は実施済み。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
	化石移動	歴史民俗資料館 分化石移動済○	歴史民俗資料館 分化石移動済○	歴史民俗資料館 分化石移動済○

③成果と評価

懸案であった地学分館のオープンは一定の成果があった。

④課題と対応

展示更新が一部の施設にとどまっている。市全体での計画的な更新が必要である。

(2) 収蔵学習室の整備

①計画内容

平成 24 年度	：ネームプレート、解説パネル等を作成し、観覧可能な体制を整える。
平成 25 年度～	：収蔵棚を新たに購入し、収蔵機能を向上させる。

②実績

収蔵学習室としてネームを表示変更済み。収蔵棚を設置済み。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
総領収蔵学習室 ～収蔵棚設置	総領収蔵学習 室・西城収蔵学 習室ネーム変更	収蔵学習室整 備済○	収蔵学習室整 備済○	収蔵学習室整 備済○

③成果と評価

収蔵棚の設置を行い、資料整理を進め収蔵学習室として整備した。

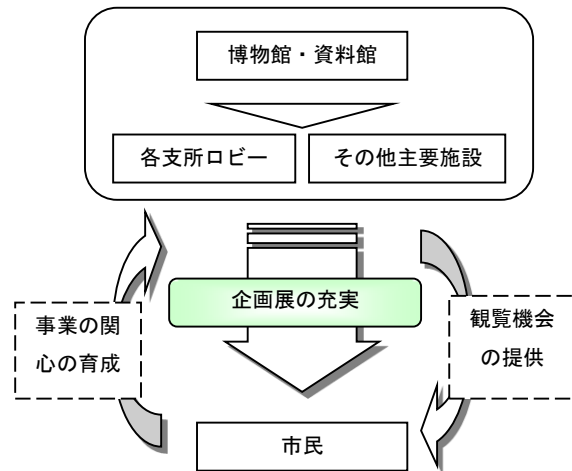
④課題と対応

収蔵は進んだが、学習室としての機能は進んでいない。各館の収蔵資料の活用に向けた全体的な検討が必要である。

6 企画展示の充実

各施設に収蔵されている特徴的な資料を抽出し、博物館・資料館内の企画展示室又は備北丘陵公園や県民の森等の市民が多く交流する施設において企画展を開催する。

また各支所において展示パネルを配置し、支所ロビー等を活用したパネル展示により巡回展を開催し、多くの市民が資料に触れることができる機会を提供する。



(1) 企画展示の充実

① 計画内容

平成 23 年度	: 西城支所における宮田武義関連資料展示コーナーの設置および各支所において展示パネルを設置する。
平成 24 年度	: パネル展示用資料を作成し、各支所においてパネル展示を開催する。
平成 25 年度	: 移動展示ケースを購入し、庄原市内の主要施設において企画展示を開催する。

② 実績

西城支所において宮田武義関連資料展示コーナーを設置済み。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
西城支所展示	西城支所展示 済○	西城支所展示 済○	西城支所展示 済○	西城支所展示 済○

③ 成果と評価

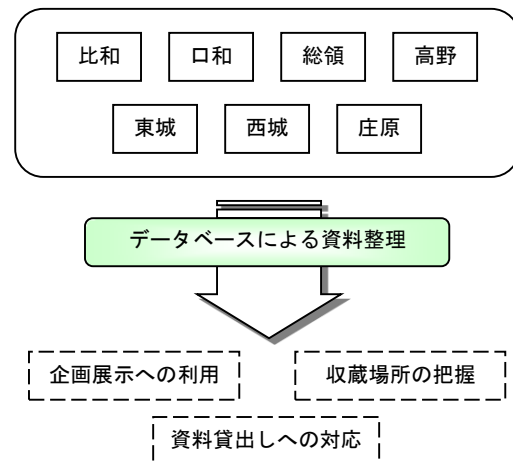
西城支所以外でも田園文化センターでパネル展示開催を実施している。丘陵公園と共同でたたら展示を企画実施している。

④ 課題と対応

各支所の巡回展示が十分には進んでいない。市内の資料を活かした企画展示のさらなる検討が必要である。

7 データベースによる資料整理

資料検索や保管場所の把握を容易に行なえるようにするため、博物館・資料館が収集してきた資料をデータベース化することにより、計画的な保管、収蔵活動を実施していく。今後の資料データベースの展望として、一般公開用のデータベースを作成し、博物館・資料館事業のPR活動として活用を図る。



(1) データベースの入力作業

① 計画内容

③ 実績

庄原市歴史民俗資料館、総領収蔵学習室及び西城収蔵学習室、比和自然科学博物館に

平成 23 年度	: 各施設の収蔵資料のデータベース化を完了する。
平成 24 年度～	: 長期計画に基づき比和自然科学博物館収蔵資料のデータベース化を継続して行なう。

ついて所蔵民具のデータベース化済み。民具以外のデータベース化については進んでいない。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
完了	—	—	—	—

③成果と評価

平成 23 年現在の民俗資料のデータベース入力は概ね完了した。システム上、共有化は図られていない。

④課題と対応

入力時点以降の更新がされていない。データベースの完全統合も完了しておらず、各館において常時更新を図る必要がある。比和自然科学博物館は、膨大な自然科学系資料をどう整理するかが課題である。

(2) データベースシステムの活用

①計画内容

平成 23 年度	: 各施設のデータベースを統合し、庄原市全体での資料検索が可能な体制を整える。
平成 24 年度～	: データベースシステムの実用性について検討し、随時更新を行なう。

②実績

各施設のデータベースの入力とともに一元管理を図った。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
各施設データベース本庁集約済○	—	—	—	

③成果と評価

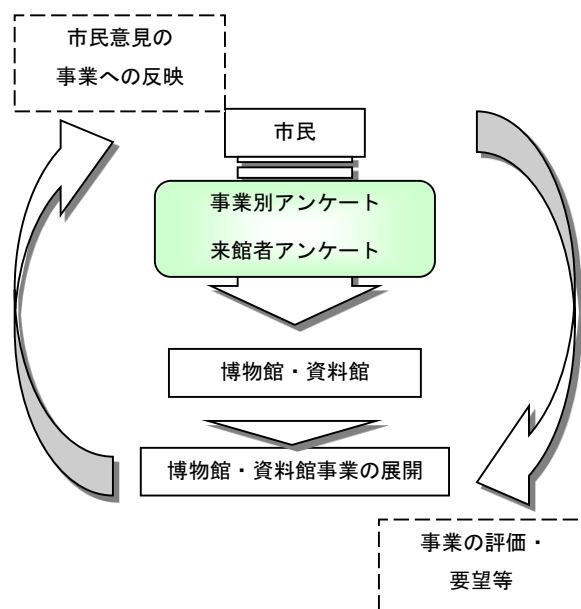
本庁において市全体での資料検索が可能な体制は整ったが、全市的活用が図られる体制は整っていない。

④課題と対応

一般公開用データベースは作成できておらず、重要資料についてはHP等での公開の方法を検討する。

8 博物館・資料館アンケート調査の実施

アンケートによる意向調査を行い、多様な博物館・資料館活動において市民の意見を反映させる。



(1) 来館者アンケート調査

各施設単位で博物館・資料館の利用者に対して行い、リピーター層の獲得、館内活動の評価等について意見を聴取するために実施する。

①計画内容

平成 23 年度 : アンケート調査票を作成する。
平成 24 年度～ : 施設単位でのアンケート調査の実施と、集約を行なう。

②実績

時悠館で一部実施されている。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
アンケート実施時悠館○	アンケート実施時悠館○	アンケート実施時悠館○	アンケート実施時悠館○	アンケート実施時悠館○

③成果と評価

平成 23 年度に予定したアンケート調査票が作成されておらず、これに係る施設単位でのアンケート調査も実施されていない。

④課題と対応

利用者の意見を反映させた館運営は不可欠であるが、魅力ある展示活動となっているか、内部的な業務見直しが先決である。その上で、利用者のニーズを的確に把握する仕組みについて引き続き検討する必要がある。

(2) 事業別アンケート調査

各事業の対象者に向けて行い、事業計画における指針、事業評価の手段として実施する。生涯学習課においてアンケート調査票を作成し、集約を行なう。

①計画内容

平成 23 年度～ : アンケート調査票を作成し、事業対象者に対してアンケート調査を実施する。

②実績

各事業の対象者に向けて行うこととしていたものの、実施されていない。平成 23 年度に予定したアンケート調査票が作成されておらず、事業対象者に対するアンケート調査も実施されていない。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	—	—	—	—

③成果と評価

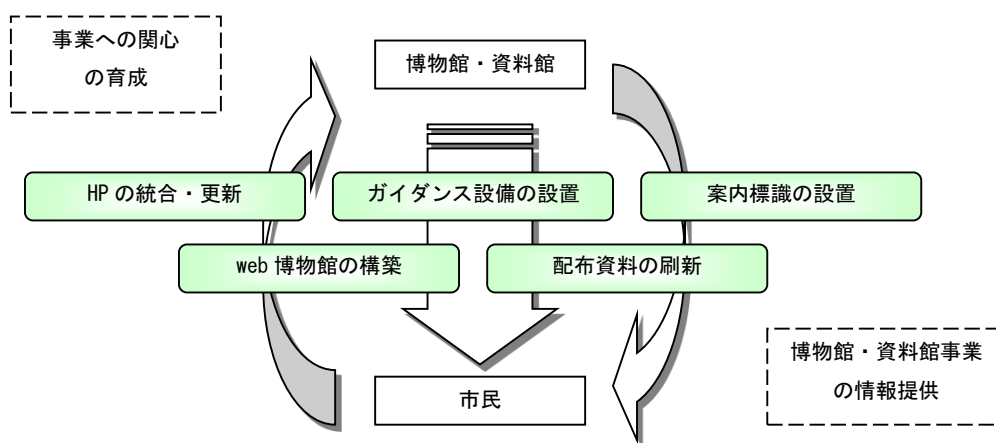
達成できていない。

④課題と対応

事業評価の手段としてのアンケートの内容について継続して検討する必要がある。

9 博物館・資料館事業のPR活動の充実

現在、庄原市の博物館・資料館事業のPR活動は企画展に伴うポスター掲示やチラシ配布が主であり、その他のPR活動についてはほとんど機能していないのが現状である。今後、博物館・資料館活動を充実させ、広く市民に利用してもらうためには、より市民の目に触れやすく、魅力的に情報発信するためのツールが重要である。そうした課題に対して以下の事業を展開する。



(1) HPの統合・更新

博物館・資料館活動に興味を持ってもらい、より利用しやすくするという目的で、現在、施設ごとに運営されているHPを統一化し、利用者にとってわかりやすく、興味関心を惹くHPに更新する。また掲載する情報についても検討し、より充実した内容を閲覧者に対して提供できるよう考慮する。平成24年度において予算化し、閲覧可能な体制を整える。

①計画内容

平成24年度	: 現在運営している、各施設単位でのHPを廃止し、統合型HPを新設する。
平成24年度～	: 統合型HPは生涯学習課において管理し、ダウンロードコーナーやイベント情報等の更新を定期的に行なう。

②実績

統合型HPは実施されていないため、現在のHPを随時更新している。

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
—	—	—	—	—

③成果と評価

統合HPを新設する計画であったが、達成できていない。

④課題と対応

利用者にとってわかりやすく興味関心を惹くHPを新設できておらず、次期計画に向けて十分な検討が必要である。

(2) WEB博物館の構築

WEB上で気軽に博物館・資料館を利用し、学習できるようにすることを目的に、展示資料・収蔵資料に関するデータベースの公開や教材の提供など、市民がいつでもどこで

も博物館・資料館情報を入手できるシステムの開発を行なう。

①計画内容

平成 23 年度	: WEB 博物館基本計画の作成
平成 24 年度	: WEB 博物館入力情報の整理
平成 25 年度	: WEB 博物館の作成・利用促進

②実績

市民がいつでもどこでも博物館・資料館情報を入手できるシステムの開発を予定していたものの、実施されていない。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	—	—	—	

③成果と評価

展示資料・収蔵資料の公開や教材の提供を図るため、観光ナビとの連動を進めている。

④課題と対応

WEB 博物館に求められる内容の検討とともに、その必要性についても抜本的に考える必要がある、また、観光協会 HP「観光ナビ」の効果的な活用について協議を行う。

(3) 配布資料の刷新

庄原市内に点在する、各博物館・資料館の展示資料や施設情報、イベント情報等を集約したパンフレットを作成し、各施設や市役所、観光スポット等で配布を行なう。

①計画内容

平成 24 年度	: 統合型パンフレットの原稿作成・印刷
----------	---------------------

②実績

平成 24 年度において作成済み。平成 25 年度及び平成 27 年度に更新・増刷。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	1,000 部印刷	5,000 部増刷	—	5,000 部増刷

③成果と評価

利用ニーズが非常に高く、随時増刷して対応している。

④課題と対応

観光部門と連携した活用についても検討すべきである。

(4) 博物館・資料館のガイダンス設備の設置

博物館・資料館のインフォメーション機能を持つ設備を、庄原市内の主要施設に配置する。各博物館・資料館の展示情報、イベント情報等を随時更新しながら、市民に対して最新情報の提供を行う。

①計画内容

平成 24 年度	: ガイダンス機能の詳細検討
平成 25～26 年度	: 庄原市歴史民俗資料館内においてガイダンス設備の設置

②実績

検討や設置がされていない。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	—	—	—	

③成果と評価

庄原市歴史民俗資料館内へのガイダンス設備の設置は完了していないが、検討に着手した。

④課題と対応

各館の展示更新を経る中で、庄原市歴史民俗資料館におけるガイダンス機能の確保を

図る。

また、当該手法に限らず、効果的なPR方法の充実を図り、PRを市内の観光施設で行う。

(5) 博物館・資料館の案内標識の設置

各施設付近の主要道路に対して、案内標識を設置し、観光客等を博物館・資料館への誘導を促進する。

① 計画内容

平成 24 年度	: 帝釈峡博物展示施設時悠館の案内標識設置
平成 25 年度	: 比和自然科学博物館の案内標識設置
平成 26 年度	: 庄原市歴史民俗資料館の案内標識設置

② 実績

地学分館オープンに合わせ、比和自然科学博物館の案内標識を設置した。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	時悠館・地学分館	—	—	

③ 成果と評価

時悠館と比和自然科学博物館については実施できているが、庄原市歴史民俗資料館・倉田百三記念館の案内標識は既存の看板のままとなっている。

④ 課題と対応

実地確認の上、今後も必要に応じて増設、新設について検討する。

II 個別事業の展開

1 比和自然科学博物館・地学分館、比和文化保存伝習施設

(1) 自然・科学へのテーマ特化

地学分館開館に併せて、化石資料を集約し、自然・科学分野の特化施設という位置づけを明確にし、企画展等の充実を図る。

①計画内容

平成 23 年度	：他施設の化石資料を集約し、自然・科学分野の特化施設という位置づけを明確にする。
平成 24 年度～	：自然・科学に特化した企画展や館外活動を継続的に実施する。

②実績

地学分館の開館により自然科学分野により特化した展示を行った。博物館の特別展や公開講座で計画的に自然科学分野の活動を行った。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
利用者 1,333 人	利用者 3,475 人	利用者 4,071 人	利用者 3,786 人	

③成果と評価

地学分館がオープンしたことにより、今までの動植物に加え、化石・鉱物も充実した展示になり、より特化した博物館の位置づけはできた。また 2 年に 1 回の特別展や講座等を開催し、館外活動も継続的に活動した。

④課題と対応

広島県で唯一の自然史系博物館という特性を生かしての講座・体験教室は実施しているものの、市内外への PR 活動が不足している。HP・企画展や講座等を活用しながら情報発信を実施していき、より高い位置づけを行う。

(2) 地学分館開設に伴う運営体制の整備

比和郷土文化保存伝習施設の設置管理条例を廃止し、比和自然科学博物館地学分館が平成 24 年度 7 月に開館することに併せて、比和自然科学博物館との一体的な施設運営を図る。

①計画内容

平成 23 年度	：比和郷土文化保存伝習施設の設置管理条例の廃止し、比和自然科学博物館の付帯施設とする。
平成 24 年度	：地学分館の開館。複合施設の一体的管理運営を行なう。

②実績

平成 26 年度に比和郷土文化保存伝習施設の設置管理条例の廃止手続きを行い、博物館の施設とした。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
	地学分館開館			付帯施設化

③成果と評価

平成 23 年度の条例廃止としていたが、その他の複合施設もあったため、平成 26 年度に一括整理を行った。平成 27 年度に付帯施設化を完了した。

④課題と対応

比和郷土文化保存伝習施設のうち展示施設部分が博物館の施設となったため、自然系の展示とともに比和町内の歴史民俗関係の展示についても実施していく。

(3) 専門知識を持つ人材の確保

現在、ボランティア組織として活動している庄原市化石集談会や比和自然科学博物館インストラクター、今後育成を図っていくボランティアガイド(平成 23～)や市民学芸

員（平成 25～）との連携を図っていくことで、人材の確保を図っていく。

①計画内容

平成 23 年度～ : 庄原市化石集談会及び比和自然科学博物館インストラクターと協議し、連携体制の整備を行なう。

②実績

平成 25 年度にインストラクター及び関係研究者を博物館客員研究員としてお願いし、連携体制を構築し、解説員として活動を実施した。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	—	展示解説 37 日	展示解説 36 日	

③成果と評価

インストラクター、化石集談会と連携し、博物館公開講座などを行った。企画展などにおいてもインストラクター協力のもと、実施している。

④課題と対応

自然系の研究者が少ないため、理科系教員を中心に講演会や講座をとおして関係強化を図るとともに、博物館活動を連携して実施できるよう計画する。

（４）地域連携による教育普及活動の展開

比和地域におけるクラスターのまちづくり事業と連携した施設の利活用を行なう。

①計画内容

平成 24 年度 : NPO まちなかミュージアム等のボランティア組織と連携し、地域イベントにおける博物館活用事業を計画する。
平成 25 年度～ : 地域イベントにおける博物館活用事業を実施する。

②実績

博物館友の会やNPO まちなかミュージアムと連携し、博物館見学ツアー等を実施した。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	見学ツアー2回	見学ツアー2回	—	

③成果と評価

地域イベントを通して見学者が増加するなど、地域の中では浸透していると考えられる。

④課題と対応

地域イベントと協力して実施はしているが博物館独自活用事業の計画は行われていない。

博物館から積極的に地域連携事業の展開を図る。

2 帝釈峡博物展示施設時悠館

（１）考古・歴史へのテーマ特化

「歴史・考古」にテーマ特化するため、庄原市内の資料を活用した常設展示の更新、企画展を開催する。（常設展示の更新は、施設設計等の制約により変更が困難であるため展示解説やパネル等の変更を中心に行なう。）

①計画内容

平成 23 年度 : 市内重要遺跡の資料を抽出する。
平成 24 年度～ : 常設展示（一部）において市内重要遺跡の資料の展示コーナーを作成する。

②実績

市内全域の重要遺跡資料の展示コーナーについては、大幅なリニューアル予算が必要

となり、また時悠館のコンセプトの大きな変更であり今後の課題と考えている。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	—	—	—	—

③成果と評価

当館と旧帝釈郷土館の収蔵庫に、市内の遺跡から発掘された出土遺物の一部を搬入し保管している。

当館の主な展示物は縄文土器などの帝釈峡岩陰遺跡群の出土遺物である。旧帝釈郷土館の収蔵資料のなかから、自然科学系・民俗学系を省き、考古学系を選別して展示計画を立てているので、「考古・歴史へのテーマ特化」という館の特徴付けは既になされている。

④課題と対応

国定公園帝釈峡・帝釈峡岩陰遺跡群といった立地の強みを活かすとともに、市内全域の重要遺跡資料にかかる活用方針についても検討を要する。

方が、より合理的でニーズに合致している。

(2) まほろばの里との一体的管理運営

まほろばの里は林業施設として林業振興課から事務委任を受けている一方、国庫補助事業により建設された施設であり、利活用の改善計画を含め、所管課（生涯学習課・林業振興課・商工観光課・東城支所）との協議を行なう。

①計画内容

平成 23 年度	：関係機関（生涯学習課・林業振興課・商工観光課・東城支所）とまほろばの里の管理運営方針について協議を行う。
平成 24 年度～	：関係機関と連携し、まほろばの里を活用した管理運営を実施する。

②実績

まほろばの里の管理運営が生涯学習課に一本化された。その後、関係機関と随時詳細な管理運営方針等協議はできていないが、時悠館と合わせて一体的管理を実施してきた。

従前より、使用料が設定されていない野外ステージと広葉樹の林を、帝釈地域の活性化イベントである「帝釈峡ウォーク」（7月）と、帝釈自治振興区と共同で行う「愛鳥活動（餌がけ）」（12月）に供している。

当館において、里内に復元された竪穴住居2棟（縄文・弥生時代）と市史跡「鬼橋野路古墳」を、屋外展示物とみなして維持・管理している。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	—	—	—	—

③成果と評価

「帝釈峡ウォーク」など「イベント会場」としての当里の利用とそれに伴う広告は、当里の名称及び位置情報の広報に寄与している。

復元竪穴住居の2棟は、当館が扱う展示物の時代区分の中心である縄文・弥生時代の人々の一般的な住居形態を説明するのに役立っている。発掘され整備された市史跡「鬼橋野路古墳」は、横穴式石室を持つ古墳の実地学習に使われている。

④課題と対応

帝釈峡まほろばの里と一体的管理運営を行っているが、管理面積が広大なため、現職員体制では管理運営が多大な負担となっている。商工観光課と連携した事業展開をはかる。

(3) 地域連携による教育普及活動の展開

現在、東城町において活動中のボランティア組織、今後育成を図っていくボランティアガイド（平成23～）と連携を図り、地域イベントとのタイアップを行なう。

①計画内容

平成 23 年度 : 東城町観光ボランティアガイド会と協議を行い、連携体制を構築する。
平成 24 年度～ : ボランティアガイドを活用した、時悠館及び周辺観光資源の活用を図る。

②実績

東城町ボランティアガイド会が時悠館を活用し、年間複数回活動されている。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	—	—	—	—

③成果と評価

観光客のニーズにより、東城町ボランティアガイド会の活用があった。今後の連携のあり方について引き続き検討したい。

④課題と対応

東城町観光ボランティアガイド会は観光名所に詳しい地元有志の集まりで、個々のガイドの手配は帝釈峡観光協会が行っている。今後の連携体制のあり方について引き続き検討する必要がある。

(4) 動物標本資料の整理

旧帝釈郷土資料館内に収蔵している保存状態が悪い動物標本資料については処分し、活用可能な標本資料を整理し、活用を図る。

①計画内容

平成 24 年度 : 帝釈郷土資料館内に収蔵している動物標本資料について整理し、処分活用計画を立てる。
平成 25 年度 : 保存状態が悪い資料については処分し、その他の資料については活用を図る。

②実績

動物標本資料は、整理してあるが、処分活用計画を立てていない。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	—	—	—	—

③成果と評価

動物標本資料の台帳は作成している。劣化した動物標本資料の処分は今後となる。現在、時悠館で展示している動物標本資料の劣化具合も確認し、処分活用計画を引き続き検討したい。

④課題と対応

動物標本資料の台帳は作成しているが処分活用計画を立てていないため、旧帝釈郷土資料館の動物標本資料に加え、時悠館で展示している動物標本資料の劣化具合も確認し、処分活用計画を検討する。

3 口和郷土資料館

(1) 音響・映像へのテーマ特化

名称の変更・愛称等によって「音響・映像」に関するテーマ特化施設としての位置づけを明確にし、音響・映像機器類を中心とした資料活用を図る。

①計画内容

平成 24 年度	：音響・映像関係資料を体系的に整備し、音響・映像関係資料に特化した常設展示室として更新する。
----------	--

②実績

音響に特化した事業展開として毎年 2 回真空管アンプコンサートを開催。
毎年映画鑑賞を開催。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
コンサート 2 回 映画鑑賞 1 回	コンサート 2 回 映画鑑賞 1 回	コンサート 2 回 映画鑑賞 1 回	コンサート 2 回 映画鑑賞 1 回	コンサート 2 回 映画鑑賞 1 回 検討委員会

③成果と評価

アンプコンサート及び映画鑑賞では多くの来客があった。資料収集を行い、展示に活用した。

④課題と対応

資料館の特色である音響・映像関係資料と他の民俗資料を併せて活用していくよう再検討する。

(2) クラスターのまちづくり基本計画と連携した施設の利活用

クラスターのまちづくり基本計画と連携した施設の利活用を行なう。

①計画内容

平成 23 年度～	：クラスターのまちづくり基本計画と併せた施設の利活用計画を立てる。
-----------	-----------------------------------

②実績

平成 21 年度に口和郷土資料館及び平成 23 年度にモーモー物産館へ水琴窟を設置。
平成 25 年度にふれあいの丘秋のコンサートの開催。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
水琴窟設置		コンサート 1 回		コンサート 1 回

③成果と評価

平成 25 年度にふれあいの丘秋のコンサートを行い、市内外から多くの来客があった。
クラスター事業とあわせて施設の利活用を図った。

④課題と対応

クラスター計画は終了したがこれまでの音の里構想を引き続き、次の計画に生かしていく。

(3) 管理運営体制の確立

クラスターのまちづくり基本計画と併せた人材の確保・育成を図る。

①計画内容

平成 24 年度～	：クラスターのまちづくり基本計画と併せた人材確保・育成計画を立てる。
-----------	------------------------------------

②実績

館長 1 名、補助者 1 名及び資料館周辺の草刈作業の人材確保が行えた。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
館長 1 名	館長 1 名	館長 1 名	館長 1 名	館長 1 名

補助員 1 名	補助員 1 名	補助員 1 名	補助員 1 名 草刈作業員 2 名	補助員 1 名 草刈作業員 3 名
---------	---------	---------	----------------------	----------------------

③成果と評価

基本計画と併せた人材確保を行ったが、将来に向けた人材確保・育成計画へはつながっていない。

④課題と対応

館運営の将来を担う人材の確保・育成が急務となっており、人材確保を計画的に実施する必要がある。

ボランティアガイド養成講座との連携を図る。

(4) 入館料の徴収

入館料の徴収を検討する。

①計画内容

平成 24 年度	: 入館料の徴収を検討する。
----------	----------------

②実績

博物館資料館運営協議会で意見交換を行うにとどまっている。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
0	0	0	0	0

③成果と評価

実施にいたっていない。

④課題と対応

博物館・資料館の入場料は、必要性も含め引き続き検討する必要がある。

4 西城歴史民俗資料館、宮田武義記念館

(1) 庄原市歴史民俗資料館の付帯施設化

平成 23 年度において西城歴史民俗資料館の設置管理条例を廃止し、庄原市歴史民俗資料館の付帯施設として位置づけ、施設の企画運営については庄原市歴史民俗資料館で行う。また平成 24 年度において収蔵室を収蔵学習室として整備し、活用を図る。

①計画内容

平成 23 年度	: 条例整備を行ない、西城歴史民俗資料館・宮田武義記念館の設置管理条例を廃止する。
平成 24 年度～	: 収蔵学習室として備品等の整備を行ない、活用を図る。

②実績

平成 24 年度より庄原市歴史民俗資料館の付帯施設とした。

③成果と評価

収蔵学習室としての活用が進まず、単に資料を収蔵する施設となっている。

④課題と対応

西城支所に隣接しているが庄原市歴史民俗資料館の付帯施設となっているため、管理形態があいまいである。

収蔵学習室として利用活用の推進を図るために、支所管理としていくのが望ましく、関係部署間での所管・連携のあり方及び庄原市歴史民俗資料館との関係等について再検討が必要である。

(2) たたら資料等特徴的な資料の活用

特徴的な資料については資料群としてまとめ、企画展等において各地で活用を図る。
特にたたら資料については「六ノ原製鉄場跡」との関連から県民の森での活用を図る。

①計画内容

平成 23 年度	： 県民の森等の企画展示を検討している施設と協議を行い、企画展示計画を立てる。
平成 24 年度	： 館外での企画展示を随時行なう。

②実績

丘陵公園での企画展示を行っている。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	丘陵公園展示	丘陵公園展示	丘陵公園展示	丘陵公園展示

③成果と評価

県民の森での企画展示は実施できなかったが、丘陵公園でのたたらイベントに合わせて毎年実施し、来園者に広く情報発信できた。

④課題と対応

館外での企画展示を継続的に実施するため、関係施設と引き続き協議を行う。

(3) 宮田武義関連資料の活用

西城支所内に宮田武義記念コーナーを整備し、資料を随時更新しながら関連資料の展示活用を図る。またその他の資料については庄原市歴史民俗資料館等での企画展に活用する。

①計画内容

平成 23 年度	： 支所内に宮田武義記念コーナーを整備する。
平成 24 年度～	： 宮田武義記念コーナーにおいて資料を定期的に更新しながら活用する。その他の資料については田園文化センター等において活用を図る。

②実績

西城支所内に宮田武義コーナーを整備した。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
コーナー整備	整備済○	整備済○	整備済○	整備済○

③成果と評価

支所内にコーナーを整備したことにより、市民に広く公開できている。

④課題と対応

コーナー整備後の定期的な展示の更新が十分には行われていない。価値ある書画類の有効活用の方法について、関係部署間で所管・連携のあり方及び庄原市歴史民俗資料館との関係等について十分な検討が必要である。

5 総領郷土資料館

(1) 庄原市歴史民俗資料館の付帯施設化

平成 23 年度において総領郷土資料館の設置管理条例を廃止し、庄原市歴史民俗資料館の付帯施設として位置づけ、施設の企画運営については庄原市歴史民俗資料館で行う。また平成 24 年度において収蔵室を収蔵学習室として整備し、活用を図る。

①計画内容

平成 23 年度	： 条例整備を行ない、総領郷土資料館の設置管理条例を廃止する。
平成 24 年度～	： 収蔵学習室として備品等の整備を行ない、活用を図る。

②実績

平成 24 年度より庄原市歴史民俗資料館の付帯施設となっている。

③成果と評価

小学校の授業等で見学があり、活用されている。

④課題と対応

総領支所に隣接しているが庄原市歴史民俗資料館の付帯施設となっているため、管理形態があいまいである。

収蔵学習室として利用活用の推進を図るために、各支所管理としていくのが望ましく、関係部署間での連携のあり方について再検討が必要である。

6 庄原市歴史民俗資料館、倉田百三文学館

(1) 総合・民俗へのテーマ特化

総合・民俗のテーマ特化施設としての位置づけを明確にし、庄原市全域の特徴的な資料を活用した常設展示の更新、企画展を行なう。また庄原市内の書画類のデータベース化を実施し、芸術分野の展示にも対応できる体制を整える。また庄原市全域の特徴的な資料を活用した常設展示の更新、企画展を実施する。また、平成 24 年度の常設展示の更新に併せて、特徴的な資料のレプリカを作成し、展示に活用する。

①計画内容

平成 23 年度	：市内の特徴的な資料を抽出し、庄原市内全体を把握可能な常設展示更新計画を立てる。また、市内の主要施設において企画展示の開催を計画する。
平成 24 年度～	：備品購入やレプリカ・解説パネル等を新たに作成し、常設展示の更新を行なう。

②実績

市内全体を把握可能な常設展示の更新計画及び市内主要施設での企画展示の開催計画は立っておらず、これに基づく展示更新も実施に至っていない。

市内の主要施設における企画展示の開催計画についても実施できていない。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
×	×	×	×	

③成果と評価

総合・民俗へのテーマ特化に向けた常設展示更新計画が難航している。

上記のほかに、主要施設企画展、書画類データベース化、常設展示の更新・企画展を予定したが、いずれも未達成となった。

④課題と対応

総合・民俗のテーマ特化施設としての明確な位置づけとともに、庄原市全域の特徴的な資料を活用した常設展示の更新、企画展を行なうための協議・検討を行い、着実に常設展示のリニューアルを果たす必要がある。

庄原市内の書画類のデータベース化を実施し、芸術分野の展示にも対応できる体制を早急に整える必要があり、休校・廃校施設等を活用した収蔵施設の整備も検討すべきである。これら芸術分野に関する業務については、所管の再検討の余地もある。

(2) 展示の更新・ガイダンス設備の設置

平成 24 年度の地学分館のショウバラクジラ化石資料の移動に併せて、常設展示室の更新・ガイダンス設備の設置を行なう。

①計画内容

平成 24 年度	：クジラ化石資料の移動に併せて常設展示の更新及びガイダンス設備の設置計画を立てる。
平成 25～26 年度	：常設展示の更新に併せてガイダンス設備を設置する。

②実績

設備の設置は行っていないが、検討中である。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
—	×	×	×	

③成果と評価

ガイドランスの設置に至っていない。

④課題と対応

化石資料の移動に併せて常設展示室の更新を進める計画であったが、達成できていない。常設展示のリニューアルに向けた計画を進める中で、より効果的に市内全体を紹介できるガイドランス機能の内容について十分検討する。

(3) 倉田百三講習会の開催

倉田の会の高齢化に対応して倉田百三に関する解説を行なえる人材を育成するため、専門講座を開催する。

①計画内容

平成 24 年度～	：倉田百三人材育成講習会を定期的に開催する。
-----------	------------------------

②実績

平成 23 年度第 1 回庄原市文化財ガイド養成講座（4 回講座；平成 24 年 2 月～3 月）において、「倉田百三」を題材とした。市民 10 名が参加。

平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
講座実施○	×	×	×	×

③成果と評価

平成 23 年度以降、「倉田百三」を題材とした講座は開かれていない。継続性のない講座ではガイドの人材育成に繋がらない。

④課題と対応

「倉田百三友の会」（定光大燈会長）は、数名の構成員で細々と会が存続している現状で、活動といえば年 1 回の墓前祭を実施されるにとどまっている。

平成 25 年度からは、市教委（倉田百三文学館）の呼びかけで年数回交流の場を設定し、意見交換・情報交換、講演会の共催等をおこなっている。倉田百三に関する解説を行なえる人材の育成を図る取り組みとして今後も継続するとともに、百三関係資料の積極的な活用を図る。

第6章 事業実績評価総括表

1 事業実績評価総括表（全体事業）

	事業名称	達成度	生涯学習課担当の全体事業	各館固有の個別事業	行政内の連携を要する事業	幅広い連携を要する事業
1	I 1.(1)体験メニューの作成	○	◆			
2	I 1.(2)手引きの作成・配布	○	◆			
3	I 1.(3)博物館・資料館バス貸出し	○	◆			
4	I 1.(4)出前講座の実施	○	◆			
5	I 1.(5)実物資料教材の貸出し	○	◆			
6	I 2.(1)大学構内における広報活動・展示活動	○	◆			
7	I 2.(2)大学講師による市内での講座の開催	○	◆			
8	I 2.(3)施設利用に関する制度面の整備	○	◆			
9	I 2.(4)博物館と大学による共同研究の実施	×				◆
10	I 3.(1)ボランティアガイド養成講座	○	◆			
11	I 3.(2)観光イベントへの参画	○	◆			
12	I 4.(1)市民学芸員養成講座	△			◆	
13	I 5.(1)常設展示の更新	△			◆	
14	I 5.(2)収蔵学習室の整備	△			◆	
15	I 6.(1)企画展示の充実	△			◆	
16	I 7.(1)データベースの入力作業	△			◆	
17	I 7.(2)データベースの活用	△				◆
18	I 8.(1)来館者アンケート調査	△			◆	
19	I 8.(2)事業別アンケート調査	×			◆	
20	I 9.(1)HPの統合・更新	×			◆	
21	I 9.(2)WEB 博物館の構築	×			◆	
22	I 9.(3)配布資料の刷新	○	◆			
23	I 9.(4)博物館・資料館のガイダンス設備の設置	×			◆	
24	I 9.(5)博物館・資料館の案内標識の設置	△			◆	

2 事業実績評価総括表（個別事業）

	事業名称	達成度	生涯学習課担当の全体事業	各館固有の個別事業	行政内の連携を要する事業	幅広い連携を要する事業
25	Ⅱ1 比和. (1) 自然・科学へのテーマ特化	○		◆		
26	Ⅱ1 比和. (2) 地学分館開設に伴う運営体制の整備	○		◆		
27	Ⅱ1 比和. (3) 専門的知識を持つ人材の確保	○		◆		
28	Ⅱ1 比和. (4) 地域連携による教育普及活動の展開	△				◆
29	Ⅱ2 帝積. (1) 考古・歴史へのテーマ特化	○		◆		
30	Ⅱ2 帝積. (2) まほろばの里との一体的管理運営	△			◆	
31	Ⅱ2 帝積. (3) 地域連携による教育普及活動の展開	△				◆
32	Ⅱ2 帝積. (4) 動物標本資料の整理	×			◆	
33	Ⅱ3 口和. (1) 音響・映像へのテーマ特化	○		◆		
34	Ⅱ3 口和. (2) クラスターのまちづくり基本計画と連携した施設の利活用	○		◆		
35	Ⅱ3 口和. (3) 管理運営体制の確立	△			◆	
36	Ⅱ3 口和. (4) 入館料の徴収	×			◆	
37	Ⅱ4 西城. (1) 庄原市歴史民俗資料館の付帯施設化	○		◆		
38	Ⅱ4 西城. (2) たたら資料等特徴的な資料の活用	△			◆	
39	Ⅱ4 西城. (3) 宮田武義関連資料の活用	△			◆	
40	Ⅱ5 総領. (1) 庄原市歴史民俗資料館の付帯施設化	○		◆		
41	Ⅱ6 田文. (1) 総合・民俗へのテーマ特化	×			◆	
42	Ⅱ6 田文. (2) 展示の更新・ガイダンス設備の設置	△			◆	
43	Ⅱ6 田文. (3) 倉田百三講習会の開催	△				◆

3 事業達成率総括表

達成度表示	区分	件数	割合
○	達成	19 件	44%
△	未達成	16 件	37%
×	未着手	8 件	19%